

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	シグナル因子と三次元構造材料を統合する「四次元足場システム」の創製
研究代表者	鄭 雄一（東京大学・大学院工学系研究科・教授）※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>応募者は、これまで骨軟骨組織工学分野で足場素材の開発や骨軟骨再生を誘導するシグナル因子とその送達法に関して先導的な研究を展開してきた。本研究は足場素材にシグナル因子を配置し、足場素材を望みの時間に分解して標的細胞に最適タイミングで届ける高機能ハイドロゲルユニット「四次元足場システム」を創製することを目的としている。研究の焦点はよく絞られており、評価システムも妥当で信頼性も高い。四次元足場システムが実現すると、骨軟骨だけでなく多臓器の再生にも応用でき、再生医学全体へ大きな波及効果が期待できる。世界的にも先駆的な研究であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>